

学位論文に係る評価に当たっての基準

■博士前期課程

学位論文に係る評価に当たっての基準

1 学位論文が満たすべき水準

修士学位論文は、新規性や独創性を有し、当該分野における新しい知見を含んでいる学術的価値を有する自著の論文であること。

2 審査体制

主査1名、副査2名により審査を行う。

3 審査方法（項目）

論文審査並びに試験及び口述試問を行う。

（項目）

- ① 論文の題名は内容に対して適切であるか。
- ② 問題意識が明確であるか。
- ③ 構成は適切であるか。
- ④ 論述の論理性は適切であるか。
- ⑤ 先行研究を系統的に説明し、当該分野における研究の位置付けが明確になされているか。
- ⑥ 参考（引用）文献は適切であるか。

■博士後期課程

学位論文に係る評価に当たっての基準

1 学位論文が満たすべき水準

博士学位論文は、新規性や独創性を有し、当該分野において十分な学術的価値を有する自著の論文であること。また、当該分野における学術研究の発展に貢献できること。

2 審査体制

主査1名、副査2名により審査を行う。

3 審査方法（項目）

論文審査並びに試験及び口述試問を行う。

（項目）

- ① 論文の題名は内容に対して適切であるか。
- ② 問題意識が明確であるか。
- ③ 構成は適切であるか。
- ④ 論述の論理性と客観性は適切であるか。
- ⑤ 理論的整合性はとれているか。
- ⑥ 先行研究を系統的にかつ必要十分に説明し、当該分野における研究の位置付けが明確になされているか。
- ⑦ 参考（引用）文献は適切であるか。